

## 日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本インターベンショナルラジオロジー学会

理事長 山門亨一郎

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

### ① IVR の普及

日本インターベンショナルラジオロジー学会（日本 IVR 学会）では、画像ガイド下に行う治療目的手技であるインターベンショナルラジオロジー（IVR）とこれに関連する分野の学術ならびに技術の発展を図るとともに、国内外の研究と連携し、IVR が治療体系に組み込まれることを目指している。一方、「インターベンショナルラジオロジー」または「IVR」に適切な和名称がなかったことにより、他分野や国民に広く認識されるに至っておらず、「画像下治療」との和名称を規定したが、さらに低侵襲性の治療行為を具体的に示すために「カテーテル・穿刺治療」と称して、国民の理解や本治療法の普及を進めることとした。

### ② IVR 専門医の育成

IVR は治療の低侵襲性、即効性を旨とするものであるが、対象疾患は全身に及び、治療法も血管内治療では動注・動脈塞栓術、血管形成術など、非血管内治療では生検、ドレナージ、アブレーションなどが挙げられる。これらの疾患を扱う診療科は多岐にわたるが、IVR を系統的に理解し、対応できる人材が必要とされ、IVR の進歩と安全性、治療成績の向上のため、日本 IVR 学会では専門医制度を設け、IVR 専門医を育成している。IVR 専門医は施設内で診療科を問わず横断的に関わる IVR の中心を担っている。

b. 当該領域における国際的な役割

米国 IVR 学会、欧州 IVR 学会等、各国・各地域の IVR 学会と連携し交流し、新技術や新規デバイスの導入にも寄与している。また、毎年開催される学術集会を 3 年毎に国際学会（International Symposium of Interventional Radiology : ISIR）として開催し、各国から多数の研究者を集めることで、日本の IVR の情報発信を行い、国際的な貢献を担っている。さらに、アジア・オセアニア地域の IVR 医育成を目的に学術講習会（Seminar for Interventional Radiology in Asia-Pacific : SIRAP）を年 1 回開催し、アジア・オセアニアにおける IVR の普及と発展に重要な役割を果たしている。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

IVR は医療の低侵襲化の一翼を担っており、また、IVR 機器の適正な導入・普及、新規デバイスの導入における使用基準策定、教育体制の確立に取り組んでおり、IVR に関連する新規機器の承認において本学会が果たす役割は大きいと考える。

d. 学会運営上留意している点

IVR は IVR 医のみならず、診療放射線技師、看護師等の医療スタッフとの協働により成り立つものであり、IVR の開発・実践に関わる医師、医療スタッフや医学研究者の会員が存在する。学会の運営においては、このような多彩な背景を持つ会員のニーズに応えるべく、多様性を重視した運営を心掛けている。医師に対する IVR 専門医制度のほかに、看護師に対するインターベンションエキスパートナース (Intervention Nursing Expert : INE) 制度を日本心血管インターベンション治療学会と合同で設定し、診療放射線技師に対しては日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構と連携している。

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

2020 年に開催された第 49 回日本 IVR 学会総会ならびに 2021 年に開催された第 50 回日本 IVR 学会総会では日本産科婦人科学会との Joint Session を行い、危機的産科出血、症候性子宮筋腫への動脈塞栓術をテーマとして意見を交換した。また、2021 年開催の第 73 回日本産科婦人科学会学術講演会においても、日本 IVR 学会との合同セッションが企画され同様のテーマで産科婦人科領域での IVR についてのシンポジウムが行われた。

また、2021 年開催の第 49 回日本救急医学会総会・学術集会では「救急医療における IVR の進歩と限界」をテーマとしたワークショップが企画されている。第 49 回・第 50 回日本 IVR 学会総会では、救急 IVR に関する教育企画が設けられた。さらに、日本 IVR 学会では、日本救急医学会および日本外傷学会の協力を得て救急・外傷 IVR 委員会を発足させ、救急外傷医の IVR 研修を受け入れ可能な修練施設をホームページで公開している。